

BULA 通信 フィジー国紹介編

Bula(こんにちは)。19年度2次隊(青少年活動)でフィジーに派遣されています柴田美和です。
第1回目の今回は「フィジーってどんな国」というお話をしたいと思います。

皆さんの想像するフィジーはどんなところでしょう。“青い海に美しい砂浜?”
次の6枚の写真を見てください。どの写真が皆さんのイメージに近いのでしょうか。

1)



2)



3)



4)



5)



6)



もちろん、以上の6枚の写真は全て「フィジー」です。皆さんが旅行でフィジーを訪れた場合、皆さんが
出会うフィジーはもしかしたら**3)番までのフィジー**かもしれません。でも、実際には**4)5)6)番**のフィジ
ーが大多数の現地の人たちの生活するフィジーになります。

少し、写真に説明を加えましょう。

- 1)2)フィジーにいても1)のように美しい海は「まれ」です。離島へ行かなければ見られません。2)はリゾートホテルですね。
- 3)首都にあるショッピングモールの写真です。首都は、この1年半の間でも目まぐるしく発展し続けています。
- 4)マーケットの様子です。彼らののんびりとした日常が垣間見られます。
- 5)6)フィジーの国土の大半はこのような風景です。

さて、次にフィジーの人たちはどんな**食事**をしているのでしょうか。

フィジーの人口は現在、「indigenous Fijian」と呼ばれる元々フィジーに住んでいた人たち約60%弱と、
イギリスの植民地時代にインド南部より連れてこられた「indo-Fijian」と呼ばれるインド人の人たち約40%
弱で占められています。今回は「Indigenous Fijian」の人たちの**食事**を紹介します。



ある日曜の昼食です。(彼らは(私も)手を使って食べます。)

- 1)手前中央:茹でた魚
 - 2)手前右:茹でたオタ(野菜)
 - 3)手前左:チョプシー(鶏肉と野菜の炒め物)
 - 4)中央:キャッサバ(彼らの主食となる芋)
 - 5)水色のポット:ミティ(ココナッツミルクとレモンのソース)
- * 1)と2)にかけて食べます

敬虔なキリスト教徒のフィジーの人たちにとって、日曜日は「お祈りの日」「働いてはいけない日」です。
日曜の昼食は彼らにとっては特別で、いつもより少し豪華なメニューになります。

村での調理風景はこんな感じです。フィジーはまだまだ水道の普及率が低く、居間(兼「寝室」の場合
も)で調理をする姿がよく見られます。



少し、フィジーのイメージが膨らんだでしょうか。

今回は私の配属先「National Youth Training Center(国立青年訓練所)」を紹介したいと思います。

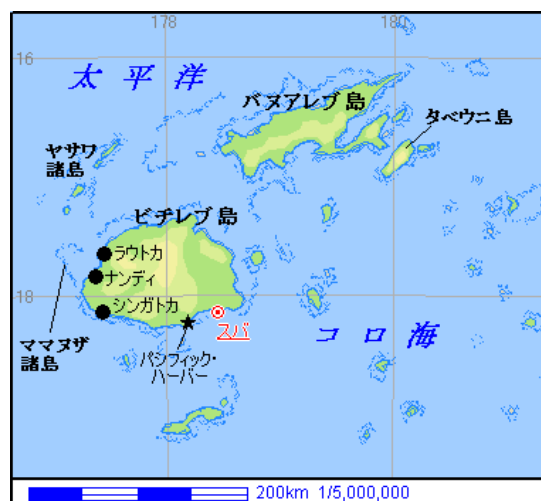
BULA 通信 配属先紹介編

Bula (こんにちは)。今回は、私が派遣されています配属先の紹介をしたいと思います。

私の配属先は、**National Youth Training Center (国立青年訓練所)** になります。首都スバより120kmほど離れたシンガトカという町からさらに車で15分ほど未舗装の道を北へ上ったところにあります。



シンガトカタウン



このセンターは高校中退者を対象に、就職に必要な技術・資質を身につけさせることを目的に設立されました。現在、大工コース、農業コース、マルチスキルコース(家政)の3つのコースが開催され約75名の研修生が寮生活を送りながら研修に励んでいます。

配属先横には日本のNGO団体OISCAの事務所があり、農業コースを担当されています。



朝令(国旗掲揚: 日本・フィジー・OISCA)

寮生活を送っている彼らには、毎日たくさんの日課があります。月曜と金曜に行われる朝礼もその一つです。朝5時半起床に起床し、掃除や洗濯(もちろん手洗いです)、8時から4時までの研修に加えて、フィールドワークと呼ばれる農場での作業、夜の7時から行われるお祈りの時間、そして9時半消灯です。



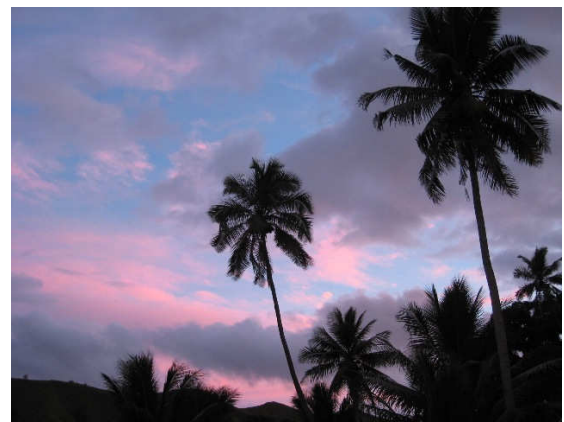
ラグビーの練習風景

4時半から5時半まで設けられた自由時間には、研修生たちはスポーツに興じます。人気はもちろんフィジーの国技でもあるラグビー。彼らに天候は関係ありません。灼熱の太陽であろうと土砂降りの雨であろうと毎日泥だらけになりながら練習しています。今年もいよいよラグビーシーズンが始まります。5月から9月にかけてシンガトカタウンの競技場で行われる試合が待っています。

頑張れ研修生！



スタッフの送別会



空は毎日とっても綺麗



チャイムの代わりに太鼓を鳴らします



いかがでしょうか。私はここで毎日のんびり楽しく生活をしています。次回はいよいよ私の活動を紹介したいと思います。

19-2 フィジー 柴田美和

BULA 通信 活動紹介編

Bula (こんにちは)、鳥取県のみなさん。

日本はこれからが夏…。フィジーは今が一番寒い時期で、朝晩は毛布を3枚かけていても明け方に寒くて目が覚めてしまいます。水シャワーが身にしみます。

さて、今回は前回紹介させていただきました「National Youth Training Center (国立青年訓練所)」で、私がどのような活動をしているのかをご紹介します。

私はこのセンター (NYTC) にマルチスキルコース (家政) のコースコーディネーターとして派遣されました。このコースでは、洋裁・料理・スクリーンプリンティング等の技術を指導しています。家政を専門に勉強していない私にとって、試行錯誤の日々が続いています。今年度は12名の研修生を迎え、2月下旬に研修がスタートしました。半年間の研修を得て、彼女たちは8月下旬に卒業を迎えます。私の帰国が9月下旬。運よく、彼女たちを見送ってから、センターを後にすることができそうです。

私の活動は大きく分類すると、以下の4つが柱となっています。

- 1) マルチスキルコースの企画運営 (講師の決定、授業スケジュールの作成、材料の購入等)
- 2) マルチスキルコースの講師のアシスト (授業のアシスト、事務処理等)
- 3) 授業の担当 (手縫い・料理等の授業、日本語・日本文化紹介の授業等)
- 4) 卒業生のモニタリング及びフォローアップのセットアップ (自身が派遣されてからモニタリングに取り組み始め、現在ビジネストレーニングの試験的導入中)



ビジネストレーニングの実施



刺繍作品 (生徒及び講師と共に)

1年半にわたり、このセンター (NYTC) の改善すべき1番の課題を「卒業生の就労状況」とし、「そのために何をしなければならないのか」をテーマに活動してきました (添付資料)。残り5か月となりましたが、今後も配属先スタッフと共に協力し合い取り組んでいきたいと思ひます。

簡単ではありますが、以上のような活動に励んでいます。次回は、フィジーをさらに知ろう!!というこゝで、フィジーの伝統文化を紹介したいと思ひます。

BULA 通信 活動紹介編

Bula (こんにちは)、鳥取県のみなさん。残り任期も4か月を残すのみとなりました。私からの最後のBula通信です。今回は、フィジーの伝統文化を少しお伝えしようと思います。



まずは、フィジーの日常生活にも冠婚葬祭にも欠かせないカバ(ヤンゴナ)という飲み物を紹介します。カバはコショウ科の木の根を乾燥させ、粉末状にしたものです。彼らはこれを布で濾して飲みます。味は、薄めた漢方薬です。飲んだ後に舌が少しピリピリと感じます。飲みすぎるとお酒に酔った時のような酩酊感が出ますが、鎮静作用があるのでお酒のように騒ぐことはなく、眠気と闘いながら頭を左右に揺らし、明け方まで飲み続ける彼らの姿を目にします。

お通夜で…



家族(親族)が集まると…



市場で売られているカバ



(フィジーを知ろう)

彼らの最も好きな(よく使う)言葉に「ケレケレ」があります。「ケレケレ」とは「please」の意味で、誰かに何かをお願いしたいときに使います。彼らの生活は全てケレケレで成り立っているといっても過言ではありません。日常生活では、ペンを貸して、のりを貸して、包丁ある?、ツナ缶ちょうだい…等々、私の所にもたくさんのケレケレが来ます。このおかげで、赴任当初私は何本ものペンを失ってしまいました。戻ってこないんですよね(笑)。葬儀や結婚式でもありとあらゆるもの(もちろんお金も)がこのケレケレの貸し借りで成り立ちます。村単位で生活を行っている彼らにとって、村のコミュニティーの力は欠かせないようです。

次に、フィジーの布「タパ (マシ)」を紹介します。「タパ」は樹皮を削り、水に浸して棒でたたいて薄く伸ばします。それから天日干しをして乾燥させて出来上がります。

絵付けの様子



完成



この布は、各家庭や葬儀で飾られるほか、結婚式の衣装としても使われます。ただし、布と言っても肌触りは「紙」そのものなので、カパカパとして着心地は良いとは言い難いようです。下の2枚の写真は結婚式での様子になります。タパを身にまとった彼らを見ると、いつも気持ちが引き締まる思いがします。



フィジーのほんの一部ではありますが、4回にわたってこの国について皆さんに知っていただけたのであれば幸いです。9月の帰国まで、フィジー生活をしっかりと満喫したいと思います。

19-2 フィジー 柴田美和

